



FAIR REVIVING SPIRIT OF UKIYO-E

神邊コレクション  
受贈記念



明治の開化絵から新版画まで

# よみがえる 浮世絵 スピリット

2026 4/12 [日] ▶▶▶ 6/21 [日]

会期中、一部展示替えがあります。

前期 4/12 [日] ▶ 5/17 [日] 後期 5/19 [火] ▶ 6/21 [日]

■開館時間: 10:00~17:00 (16:30受付終了) ■休館日: 月曜日 ※5/4 (月・祝)・5/5 (火・祝)・5/6 (水・振替休日) は開館、5/7 (木) は休館 ■主催: 東京富士美術館  
■後援: 八王子市、八王子市教育委員会、ジェイコム東京 八王子・日野局



FAM TOKYO FUJI ART MUSEUM  
東京富士美術館

〒192-0016  
東京都八王子市谷野町492-1  
TEL 042-691-4511

神邊コレクション受贈記念

よみがえる  
浮世絵  
スピリット  
明治の開化絵から新版画まで



江戸時代に一世を風靡した浮世絵は、明治時代に舶来の石版画や写真技術が普及すると、次第にその役割を取って代わられるようになります。

激動の時代、浮世絵師たちは文明開化によって一変する社会を捉える開化絵や、事件・戦争を伝える報道絵など、新たな分野を開拓しました。しかしながら、明治20年代頃より多色摺木版は衰退の一途をたどり、挿絵などの分野に活路を見いだしました。やがて小説や文芸雑誌を彩った木版口絵が大衆の人気を集め、そして大正時代には、版元・渡邊庄三郎が錦絵の復興と革新に取り組み、伝統技術と分業制度を活かしながら、清新な新版画の数々を世に送り出しました。

本展では、日本の多色摺木版が近代の機械化の波をいかに超克し、「浮世絵スピリット」とも呼ぶる伝統技術や美意識を守り、進化させてきたのかを探ります。近年、当館にコレクションの一部を寄贈された神邊一善氏の旧蔵品を中心に、近代木版画の軌跡を「明治の浮世絵」「木版口絵」「新版画」の3章構成でご紹介します。

As with Katsushika Hokusai's iconic masterpiece, "The Great Wave off Kanagawa," ukiyo-e woodblock prints swept through Japan's artistic milieu in the Edo period (1603-1868) like a powerful wave. Yet the genre's prominence gradually declined as lithography and photography were introduced from abroad in the Meiji era.

Still, ukiyo-e artists turned to new realms—from modernized Japanese prints to illustrated reports of current affairs—to capture a society dramatically upended by rapid Westernization. They turned to illustrated books, followed by a boom in frontispiece prints adorning books and literary journals. Then, in the Taishō period, the publisher Shōzaburō Watanabe undertook both the revival and reinvention of nishiki-e, producing a fresh body of shin-hanga ("new prints") by drawing on traditional techniques and the collaborative system of production.

This exhibition explores how ukiyo-e artists strove to restore the "ukiyo-e spirit" of time-honored skills and techniques, of its timeless sense of beauty and wonder. It draws largely on the works of collector Kazunori Kanbe donated to the Tokyo Fuji Art Museum and is organized into three thematic segments.

葛飾北斎《富嶽三十六景 神奈川沖浪裏》(部分) 天保元~3年(1830~32)頃 東京富士美術館蔵

1. 岡芳年《風俗三十二相 遊歩がしたさう 明治年間妻君之風俗》明治21年(1888) 太田記念美術館蔵[前期展示] 2. 水野年方《三十六佳撰 蛩狩 天明頃婦人》明治24年(1891) 東京富士美術館蔵(神邊コレクション) 3. 錦木清方《鸚鵡》(『文芸倶楽部』13巻5号 口絵) 明治40年(1907) 東京富士美術館蔵(神邊コレクション) ©Kiyoo Nemoto 2026/JAA2500209 4. 川瀬巴水《東京二十景 芝増上寺》大正14年(1925) 版元: 渡邊木版美術画舗 町田市立国際版画美術館蔵[前期展示] 5. エリザベス・キース《藍と白》大正14年(1925) 版元: 渡邊木版美術画舗 東京富士美術館蔵 6. 小早川清《ダンサー》昭和7年(1932) 東京富士美術館蔵 7. 笠松紫浪《東京タワー》昭和34年(1959) 山梨県立美術館蔵[後期展示]

表面 左上 小林清親《海運橋 第一銀行雪中》(部分) 明治9年(1876)頃 横浜美術館蔵(加藤栄一氏寄贈)[前期展示] 左下 橋口五葉《髪梳ける女》(部分) 大正9年(1920) 町田市立国際版画美術館蔵[後期展示] 右上 岡芳年《東京自慢十二月 三月 吉原の桜 尾州楼長尾》(部分) 明治13年(1880) 東京富士美術館蔵(神邊コレクション) 右中 梶田半古《菊のかり》(『文芸倶楽部』11巻13号口絵)(部分) 明治38年(1905) 八王子市夢美術館蔵(神邊コレクション) 右下 吉田博《瀬戸内海集 光る海》(部分) 大正15年(1926) 東京富士美術館蔵 ロゴ付近左 楊洲周延《欧州管絃楽合奏之図》(部分) 明治22年(1889) 太田記念美術館蔵[後期展示] ロゴ付近右 水野年方《三十六佳撰 見世棚 康正頃婦人》(部分) 明治27年(1894) 東京富士美術館蔵(神邊コレクション)

講演会「渡邊版新版画の誕生とその制作風景」  
日時:5月6日(水・振替休日) 14:00~  
講師:渡邊 章一郎氏(渡邊木版美術画舗 代表取締役)  
詳細はホームページ [www.fujibi.or.jp](http://www.fujibi.or.jp)にてお知らせいたします  
講演会ご参加の方は入場券をお求めください

関連イベント  
入場料金  
大人:1,500(1,200)円  
大高生:900(800)円  
中小生:500(400)円  
未就学児無料  
※新館常設展示室もご覧になれます ※( )内は各種割引料金[20名以上の団体、65歳以上の方、当館公式SNSフォロワー・登録者ほか] ※土曜日は中小生無料 ※障がいのある方、付添者1名は通常料金の半額[証明書をご提示ください]

▶HP: [www.fujibi.or.jp](http://www.fujibi.or.jp) ▶Facebook: [www.facebook.com/fujibi](http://www.facebook.com/fujibi)  
▶Twitter: @tokyofujibi ▶Instagram: [tokyofujibi](https://www.instagram.com/tokyofujibi) ▶LINE: [lin.ee/kMOQ6yn](https://lin.ee/kMOQ6yn)

交通案内はこちら▶▶▶▶▶  
時刻表は公共交通機関の公式ホームページにてご確認ください



〒192-0016  
東京都八王子市谷野町492-1  
TEL 042-691-4511

割引券 本チラシをご提示の上、1枚につき10名様まで有効 ※全て税込  
大人:1,500円▶1,200円 大高生:900円▶800円 中小生:500円▶400円

FAM TOKYO FUJI ART MUSEUM  
東京富士美術館